

「健康都市おおぶ」推進会議（令和3年度 第2回書面開催） 委員からのご意見について

議題1（1）「健康都市おおぶ」みんなの健康づくり推進プラン2020-2030プラン進捗と今年度の取組について【資料No.1】【参考資料No.1-1、1-2】

議題番号	意見	事務局
健康増進計画 （全般）	健康都市の「健康」の概念は、健康なまちづくりとして総合計画等に表記されていると思いますが、健康づくりの「健康」をどのような概念としてとらえているのか、プランに明記したい。どこかに明記されていれば、確認不足で申し訳ない。	計画の11ページでは、WHOの健康の定義である「単に病気でない、虚弱でないというのみならず、身体的、精神的そして社会的に完全に良好な状態」を紹介しています。健康都市はまちの健康を含むより広い概念となりますが、健康増進計画では、18ページのプランの基本理念の説明にもあるように、「健康」を「心身ともに健やかであること」と捉え、市民一人ひとりの健康づくりを推進しています。 ご意見を踏まえ、計画改定時には、よりわかりやすい表記を検討します。
健康増進計画 基本目標	平均寿命の増加分に対して、健康寿命の増加分が少なく、不健康な期間が延伸してしまったとのことですが、原因はどの辺りでしょうか。他の地域および全国的なトレンドとして要介護認定率は微減していると耳にしていたので意外な結果でした。いわゆる「見守り認定」が増えて、見かけ上、健康寿命が延びていないとすれば、指標は正しい姿を反映していないかもしれません。	平均余命の延伸は主に高齢期を中心としている一方、高齢になるほど要介護認定率が高くなることから「日常生活が自立していない期間の平均」が延伸する傾向にあります。今後後期高齢者の割合が増えていく中で、その影響が大きくなることも想定しています。今回算出したのは平成30年の健康寿命となりますが、本市の平成30年の要介護認定率は前年より上昇しています（その後も上昇傾向が続いています）。ご指摘いただいた「見守り認定」の増加の影響についても、サービス利用状況等を確認しながら考慮に入れつつ、今後も介護予防の取組を進め、目標年次における指標の達成を目指していきたいと考えています。
健康増進計画 基本目標	大府市健康増進計画について、主観的健康感に対する説明がほしいです。あるネットでは、「自らの健康状態を主観的に評価する指標」とありましたが、主観的健康感の向上という意味に疑問を感じます。	主観的健康感とは「普段の自分の健康状態に対してどのように感じて評価しているかということ」であり、「健康である」と感じる人の割合を上昇させることを目指して、「主観的健康観の向上」と表現しています。主観的健康観は、国の健康寿命の算出においても副指標として用いられており、平均余命や死亡リスクに影響を与えているという研究結果もあります。また、社会参加や健康づくりに取り組んでいる方の主観的健康感が高い傾向にあります。 ご指摘を踏まえ、計画改定時には、よりわかりやすい表記を検討します。
健康増進計画 世代別（高齢期）	市内通いの場での健康教育はとても重要な取り組みかと思えます。ポピュレーション・アプローチとしますと、本通いの場に参加された層がどのような人々だったのか、社会経済的地位や健康への関心・意欲などで特定の層に偏っているか否かを評価できるとよいかと思いましたが（偏っていたとして直ちに無意味という主旨ではありません）。	本事業では、既存の通いの場に出向いて健康教育を実施します。令和3年度は大府市老人クラブ連合会役員会と社会福祉協議会に登録しているふれあいサロン6か所で健康教育を実施しました。一般的に、通いの場を活用する方は、健康への意識が高い方が多く、実際、複数の通いの場に参加している対象者がいます。できるだけ多様な通いの場を活用し、多くの人に健康教育を伝える機会となるよう実施方法を検討します。
健康増進計画 2.身体活動・運動	スポーツ大会行事も大切ですが、ウォーキングコースの整備やスポーツ施設の新設や増設は、市民の日常活動につながり健康増進に寄与することは間違いありません。夢を描いて、スピード感を持って実現してほしいです。	スポーツ施設の新設や増設については、施設の状態や市民の皆さまのご意見を参考にしながら、計画的に行ってまいります。
健康増進計画 3.休養・こころの健康	今年度の取組について、コロナの影響で少なからず、こころへの影響は大きいと思われる。「こころの健康」のところで、「休養・ストレスマネジメント」のみの表記は、何かズレを感じてしまいます。	ご指摘のとおり、例えば学校でも、スクールカウンセラーやこころの相談員、スクールソーシャルワーカーの配置など、相談支援体制の強化を行っていただいているかと存じます。コロナの影響はしばらく継続するものと考えられますので、広く各課の取組を把握したうえで足りない部分がないか総合的な確認・調整を行い、こころの健康に取り組んでいきます。
健康増進計画 4.疾病の予防と管理	がん検診の受診率改善に期待します。	従来のがん検診に加え、令和4年4月より胃内視鏡検査を個別医療機関で開始します。今後がん検診の受診率向上を目指していきたいと思えます。
健康増進計画 4.疾病の予防と管理	特定健診、ガン検診の割合が大きく減少しています。コロナ禍の影響と理解していますが、早期の発見・介入は極めて大切ですので、よろしくお願いいたします。	令和3年度は、特定健診未受診者に対し、個別に電話勧奨を行う等、対応を強化してきました。受診者数も改善傾向がみられています。今後も、特定健診・ガン検診受診の習慣が戻るよう周知をしていきます。

健康増進計画 5.歯・口腔	市内で歯科を開業しています。夏季になると、熱中症対策として水分を摂るように、飲料を配布する職場があります。その内容が、糖分の含まれている場合があるようです。「工場」や「現場の仕事」が多いようです。小さな企業に働きかけるのは難しいと思うのですが、比較的大きな企業の「工場」などには、市の方から意見することが可能かなと思います。「こまめに摂りたい」のは水分で、そこに糖分があると「頻繁に糖分を摂る」ことになってしまいます。私の診療室で聞き取った感じでは、「工場・現場でスポーツドリンクなど糖分入り飲料」「デスクワーク、運転の仕事で缶コーヒー」のパターンが多いようです。	乳幼児健診時に保護者も含めて、飲み物の飲み方等について啓発しています。また、事業所に対しても、健康経営の観点から、従業員の健康保持・増進のため、糖分の適切な摂取について啓発をしていきます。
健康増進計画 6.たばこ・アルコール	妊婦喫煙率の増加は懸念されます。啓発の強化をお願いします。	保健師が、妊娠届を提出した全妊婦の喫煙状況を把握し、喫煙の害や禁煙のメリット、医療機関の紹介を啓発しています。妊婦歯科健診で喫煙が確認された場合は、歯科衛生士からも喫煙の害や禁煙のメリットを啓発しています。
食育推進計画 1.健全な食生活の実践	参考資料No.1-2について、すばらしい事業を提案いただきありがとうございます。このような全市的な取り組みは全国初かもしれません。いい成果を出せるよう、当センターから全面的に協力させていただきます。	本事業について、4か月児健診を受診された保護者の方からもよい反応をいただいております。引き続き事業を継続し、食物アレルギーに悩む親子の減少を目指します。今後もあいち小児保健医療総合センターの協力をいただきながら事業を進めます。
食育推進計画 2.共食の推進	資料No.1のP.11について、他の項目も全体的に、環境要因が達成状況に影響しているような感覚を持ちました。その中で、「家族と一緒に朝食を食べる子どもの割合」が若干ですが悪化傾向を示していることが不思議に感じました。令和2年度の状況だと、現在と同様のコロナ禍であっても、より大人も子どもも自宅にいる機会が多かったように思い、一緒に食べる機会が増えるのかと思いました。朝食ならイベントの開催状況に影響を受けることでもないのかと感じましたが、やはり関係があるのでしょうか。	日々慌ただしい中で、同じ空間にいても、食事をともにしていない（家事や準備をしている）という方も増えてきていると考えられます。因果関係をきちんと分析できているわけではありませんが、共食の必要性やその効果を、継続して啓発する必要があると感じます。
自死対策計画 全般	自死対策指標の改善が続くとよいです。	指標の改善に向けて、今年の自殺者数の増加を継続的な傾向としないように取組を進めてまいります。
自死対策計画 全般 4.生きることの促進要因への支援	資料No.1スライド12の右下の棒グラフがかなり特徴的に感じました。同一の方の複数回搬送と書かれていますので、実人数の変動がわかってよいのではないかと思います。実人数が不変もしくは減少しているのであれば、これは個別の支援を要する課題なのかもしれないと思いました。スライド14の結果のように、困った時の相談先があることが大切に思いますので、こちらの数値がさらに改善していくと良いと思いました。	実人数を厳密に把握しているのは令和2年からになります。実人数でも46名と令和元年より増加しています。ご指摘の通り身近な方への相談から専門家への相談まで、様々な相談先を確保し、充実させ、周知していくことが大切だと考えておりますので、今後も取組を進めてまいります。
自死対策計画 全般	自殺者数が11名→14名とのことですので、30%弱（27%）増かと思えます。もちろん自殺は発生件数が少ないので割合で見ると極端な値になりやすいのですが、とはいえ、全国比でも相当な増加のようにも思えます。5年平均などでみても顕著な増加だとすれば、従来よりも強化した対策が必要なかなと思います。	本市の自殺者数は年による増減が大きく、過去のトレンドを見ると平均的な数ではありませんが、ここ数年横ばいまたは減少傾向が続いていた中で徐々に増加に転じたことから、今後増加傾向が続かないよう早期に対策を打っていく必要があると考えています。既遂者や未遂者の数の背後に多くの悩んでいる方がいることを念頭に置き、庁内外と連携して対策を検討していき
自死対策計画 2.自死対策を支える人材の育成	自死対策について、対策を支える人材の育成は、ゲートキーパーだけではないと思います。医師や学校、地域など何かないかなと思います。	気づきや声掛け、見守りを行い、必要に応じて専門職につなげる役割を担う人材として、ゲートキーパーのほか、成年後見サポーター、認知症サポーター、民生委員、各種ボランティアなどの養成や支援を行っています。多くの方に自死対策を支えていただけるよう、育成や連携を進めていきます。

議題1（2）健康経営の推進について【資料No.2】

	意見	事務局
	事業所の取り組み状況によって段階が3つに分かれています。現状はどれくらいの割合になっているのでしょうか。また、目標値（例えば、〇人以上の事業所の〇%は取り組みはじめた以上の段階となる。）があると健康経営の推進の度合いがわかるようになると思いました。	健康経営の進捗を図る上で、保険者の実施する健康宣言事業への参加が一つの基準となりますが、宣言事業所一覧に事業所所在地の掲載がない場合もあり、市内事業所の取組状況の把握が困難な状況です。そのため、まずは保険者に対して、事業所所在地を明らかにしてもらうように働きかけております。目標値につきましては、現状把握の上、今後設定をしていきます。
	令和2年度から、貴市には大変お世話になっており、情報をいただいたり、大府商工会議所様や企業様とつないでくださったりすることによって、プラザとしても近隣の皆様とのつながりがより増え、大変ありがたく思っております。 特に中小企業の健康経営を推進されるにあたって、3者連携をされて取り組んでおられることは素晴らしいと感じます。健康経営は職域へ健康づくりの概念を広げていく手段であり、今は感染症も相まって、チャンスだと思えます。地域職域の連携が、うまく形となることを願いつつ、プラザだからこそ割り込める部分もあるのかと思っており、お役に立てることは積極的に実施したいと思うので今後もよろしくお願いします。	事業所や従業員が健康づくりを始める際の受け皿として、貴機関の事業はとても助かっております。今後も健康経営の推進に向けた連携をお願いします。

議題1（3）大府市健康プログラム2021について【資料No.3】

	意見	事務局
	就労層の運動不足解消をめざす事業であり、この取り組みでどの程度運動不足が解消されたのでしょうか。イベント前の歩数データがあるようなので、前後比較などでより成果が見えるのではないかと感じました。申込者数が昨年度より減っていますが、理由は何でしょうか。	今年度参加者のうち、就労層における1日の推奨歩数（8,000歩）達成者の割合は、20.0%（イベント前）から30.2%（イベント後）に上昇しました。 昨年度からの申込者が減ってしまったことについては、コロナ禍で市内事業所への訪問が制限され、周知啓発を十分実施できなかったことや、感染対策が急務となる中で、従業員の運動機会の創出に取り組む余裕がない事業所も多かったことなどが理由だと考えています。

議題1（4）地域包括ケアの推進について【資料No.4】

	意見	事務局
	3つの基本方針について理解しました。	来年度も関係各課と連携して地域包括ケアを推進していきます。

議題1（5）新型コロナウイルス感染症の状況について【資料No.5】

	意見	事務局
	現在進行形です。重症リスク者へのワクチン接種の徹底が重要です。	本市では、2回目接種後、6か月が経過する頃に3回目接種用の予診票を発送しています。高齢者や基礎疾患のある方など重症化リスク者への接種機会についても、高齢者施設での巡回接種や、公共施設等での集団接種、市内医療機関での個別接種など、速やかに接種できる体制整備に努めて進めています。
	感染症やワクチン接種の状況について理解しました。	引き続き、計画的に新型コロナワクチン接種を進めていきます。

議題1（6）WHO健康都市推進会議について（コロナ禍における各課の取組）【資料No.6】

	意見	事務局
	時期に応じた各課の取り組みについて理解しました。	新型コロナウイルス感染症への対応として各課で実施してきた様々な事業について、今後もノウハウの継承や改善を行っていきます。

議題2（1）健康都市連合国際大会におけるWHO表彰・AFHC表彰受賞について【資料No.7】

	意見	事務局
	地道な努力の集積が結実したものであり、素晴らしいの一言に尽きます。関係各位のご努力に感銘をうけました。	これからも庁内外の連携により健康都市を推進していきます。